

令和 4 年度 県立潮来高等学校自己評価表

目指す学校像	人間性豊かな自立した生徒の育成 ～どのような時代であっても一生涯、自立した人生を歩める人間を育成する～		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>基礎学力の養成と学習習慣の定着をめざし、丁寧な学習指導に努めているが、成果は十分ではない。学習意欲を向上させるために、授業・課題・考査の取り組み方などについて指導の工夫・改善に努め、自ら学ぶ意欲を喚起する必要がある。</p> <p>進路決定率はほぼ 100%だが、第一志望が叶わない生徒もいる。面談や進路行事、LHR、総合探究の時間を活用するなど学校生活のあらゆる場面で進路意識の高揚を図り、家庭との連携も深めていく。</p> <p>生徒指導に際し、生徒の心情を理解しながら丁寧に指導に当たった結果、概ね落ち着いた状況にある。一部軽率な言動をとる生徒もいるので、さらに生徒観察や声掛けを徹底し、個に応じたきめ細かい指導を心がけ、基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上をめざしていく。</p> <p>学校の活性化のため生徒の自主的活動を求めたい。部活動や委員会活動、学校行事への積極的参加を促し、キャリア・パスポートを活用して生徒個々の人間的成長に繋げる場を創り出していく。</p> <p>働き方改革については、教員の意識改革や業務の精選を進めなければならぬ。超過勤務時間の削減や業務の縮減で生まれた心身の余裕を生徒への指導の充実につなげていく。</p>	1 基礎学力の定着	① 「主体的・対話的で深い学び」について研究し、全ての授業で ICT も活用しながら生徒の活動・体験を盛り込んだ指導の実践に努め、インプット型学習からアウトプット型学習への転換を図る。 ② 個の適性・資質・進路希望に応じた学習指導の充実を図り、「個別最適な学び」を支援する。 ③ 授業と課題等を結び付け、自主的・自律的に学ぶ姿勢を育み、家庭学習時間 0 分の生徒をなくす。 ④ アンケートの授業に関する全項目で満足度 85%以上をめざす。	B
	2 社会を意識したキャリア教育の充実	① 適時に適切な進路行事を実施し、勤労観・職業観を育むとともに社会性を養う。 ② 丁寧な個別面談を通して、社会との関わり方を考えさせ、将来の進路設計を促す。 ③ 進路決定率 100%を実現し、就職指導に加え進学指導にも力を注ぎ、4 年制大学・短大進学 15 名以上の合格をめざす。 ④ キャリア・パスポートの活用により、人間関係形成・社会形成能力等を育成し、自己実現につなげる。	B
	3 豊かな人間性の育成	① 家庭との連携を深め、欠席・遅刻・早退を減らし、基本的な生活習慣の確立をめざす。 ② 生徒の心情理解を図り、信頼関係を築きながら生徒指導に当たり、特別指導件数を昨年度以下に抑える。 ③ 生徒とのコミュニケーションを大切にし、登校指導や学校行事、委員会活動など学校教育活動全体を通して、「豊かな心」を養い、いじめの早期発見・早期解決に努める。 ④ 部活動加入率 40%超をめざし、各部とも部員を確保し継続的に活動可能な体制づくりを行う。	C
	4 学科や地域の特色を生かした教育	① 学科や地域の特色を踏まえ、実社会・実生活との関わりを重視した体験・探究活動を設定する。 ② 地域の行事やボランティアなど生徒が積極的に外部と関わる機会を創り出す。 ③ 検定試験や資格取得、課題研究などへの取り組みを推奨し、生徒が自主的に学ぶ姿勢を引き出す。	A
	5 信頼される学校づくりの推進	① 潮来市唯一の高校として「地域と共にある学校」を理念とし、地域とのつながりを重視する。 ② 保護者や地域の方との信頼関係構築をめざし、学校公開や地域の行事を大切にする。 ③ HP の更新・閲覧回数を昨年度以上に増やし、学校だより（中学生対象）の発行を月 1 回行う。	
	6 働き方改革の推進	① ベテラン・中堅・若手でチームをつくり、スキルを組織的に継承し、業務の効率化を図る。 ② 月 80 時間超過の教員がゼロになるよう業務改善・教員の意識改革に取り組む。 ③ 働き方改革で生み出される心身の余裕を生徒の指導に生かしていく。	B

別紙様式2 (高)

三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成をめざす資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	地域社会に貢献でき、人間性豊かで自立した人生を歩むことのできる人財		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	学科や地域の特徴を生かした学習活動により基礎学力の確立と、社会を意識したキャリア教育による生徒の進路希望実現。		
	「入学者の受け入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、毎日の学校生活に「一生懸命・楽しく根気強く」取り組むことができる生徒		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
国語科	基礎学力の定着を図る。	授業でICTを活用し、基礎・基本をおさえた学習内容の定着を図る。	B	B ICTを目的に応じて有効に活用していく。 適切な課題を与え、家庭学習の定着を図る。 継続して漢字能力検定の積極的な受験をはたらきかける。
		個の適性・進路希望に応じた課外・課題添削・家庭学習指導について工夫改善をする。	B	
		日本漢字能力検定を全2回実施し、2級・準2級の合格を目指す。3級の合格者については全2回の合格率の平均が30%を越えるよう努める。	C	
	読書習慣の定着を図る。	教務部図書館担当と連動し、図書館利用の推進を図る。	B	
	社会に通用する国語力が身に付く指導を行う。	場に応じた適切な話し方・聞き方・表現力を養う活動を取り入れる授業を実践する。 各種研修会に参加し、自己研鑽に努めるとともに、教科内で連携・協力し、情報共有を図る。	B B	
地歴公民科	基礎学力の向上を図り社会的事象に興味・関心を持たせる。	電子黒板を積極的に活用し、「わかる」授業の充実を図る。	A	B ICT機材を授業内で積極的に活用できた。また、ICT機材の活用に伴い、地図や副教材の活用は以前に比べると使用頻度が上がった。 一方で、各種研修会に積極的に参加することができなかった。 次年度以降、積極的に参加できるよう心掛けたい。
		地図や副教材などの資料を通して、社会的事象に興味・関心を持てる授業展開をする。	B	
		各種研修会に積極的に参加して情報を収集し、生徒に還元していくことに努める。	B	
数学科	基礎基本の定着を図る。	基本的な計算の問題演習を授業時間に実施する。定期考査で出題し、定着の度合を測る。	A	C ・ICTを活用した効率的な授業展開を実践しているが、より有効活用するための研修が必要である。 ・進学課外や補習の機会を増やし、個に応じた指導を丁寧に行っていく。
		適宜、課題を出すことで家庭学習を促す。	B	
		定期考査不振者に対して補講を実施し、学力の底上げをしていく。	D	
	「わかる授業」への改善に努める。	ICTを活用した授業展開について、研修を深める。	C	
		数学科各教員が幅広く生徒の指導に関わっていくように協力しながら進めていく。	C	
		提出物等で生徒の理解を測り、授業に反映していく。	B	
	目的に合わせた個別指導の充実を図る。	各種研修会に参加し自己研鑽をするとともに、教科内で情報共有を図る。	C	
進学・就職に数学を必要とする生徒に対応した個別指導を随時行う。 希望者対象の課外を実施し、資質・能力をさらに伸ばしていく。		D D		
理科	生徒の実態を踏まえた指	生徒がつまづくポイントをおさえ、その都度復習し、「分かる授業」を行う。	B	単元を通して有効的にICTを

別紙様式 2 (高)

	導により、基礎学力の定着を図る。	ノート、レポート等を提出する機会を設け、授業に対する取り組みを適切に評価する。	B	B	活用し、導入や振り返りをより工夫することで単元の定着を目指した。次年度は、実験における ICT 活用法の幅を広げ、理科への興味・関心の向上を目指したい。
		小テストやアンケート、振り返りを随時実施し、学力の定着状況を確認する。	B		
	自然科学に対する興味・関心を育む。	実験・演習実験だけでなく、必要に応じて ICT を活用し、生徒が自発的に自然科学の現象に興味を持てるような指導を行う。	B		
	実験・観察に主体的に取り組む態度を育てる。	各実験の目的を理解しながら主体的な活動が行えるような指導を行う。 教科内での授業見学や TT を積極的に導入して授業力の向上に努める。	C C		
保健体育科	生徒が主体的に学び、活動する態度を育成する。	時事的内容や視聴覚教材 (ICT) を取り入れ、わかりやすい授業を展開する。 生徒一人一人の課題設定を明確にし、解決のための行動が取れるよう支援する。	C B	B	保健だけでなく、体育でも ICT 機器を活用した授業づくりを目指す。体を動かす時間の確保に努める。
	集団で行動することを通して規範意識や帰属意識を育てる。	体育の授業だけでなく、体育的行事で集団行動を行うことにより、集団の中での自己の役割を理解させ、クラスや学校の一員であることを意識させる。	B		
芸術科	生徒の実態を踏まえた魅力ある授業を通して、芸術を愛好する心情の育成に努める。	生徒の興味・関心にそった幅広い題材や実態に合わせた教材を取り上げることで、基礎的な知識や技能の定着を図る。	B	B	教科横断的な学習の機会が少なかったため、来年度は積極的に鑑賞会を行えるように努める。また、ICT をさらに活用した授業づくりを目指していく。
		芸術を通じ豊かな人間性や社会性を育み、生涯を通して芸術を愛好する心情や生きる力を育成する。	B		
		発表・展示の機会を積極的に設け、音楽・美術の横断的な鑑賞会を行うことで主体的・創造的な態度や表現する喜びを養う。	C		
英語科	生徒が主体的に取り組める課題設定を工夫する。	ペアワークやグループワークなどによる「聞くこと・話すこと [やりとり・発表]」の活動を多く取り入れ、表現する力を育む。	B	B	課題設定の工夫を継続的におこなう。生徒の実態をふまえ、基礎学力の定着に努める。
	生徒の実態をふまえ、基礎基本の充実に努める。	基礎基本となる英単語の小テストを定期的実施し、語彙力の定着を図る。	B		
商業科	基礎学力の向上に努めるとともに資格取得を奨励する	課外授業等を実施するとともに、会計・情報処理分野において TT で授業を行うことにより、学力向上を図る。	B	B	ICT 活用の授業実践に取り組み、生徒の基礎・基本の知識・技術の定着に努めた。また、潮来市や筑波大学と連携しながら、地域ビジネス科の取り組みを発信することができた。
	地域との連携を深める。	学校説明会での魅力ある授業や地域との連携を通して PR をはかり、志願者を増やす取り組みをする。	B		
情報科	情報モラルやセキュリティの知識を身に付ける。	ネットワークセキュリティや情報モラルについての知識を身に付けさせる。	B	B	中学校ではキーボード操作をほとんどしていないためキーボード操作に時間がかかる生徒が多数見受けられた。また、ソフトウェアの活用だけでなくプログラムも学習するにあたり、基本的な知識や技術の定着を図っていく。さらに、タイピングの時間も確保するようにするとともに情報モラルに対しても常に意識させるようにする。

別紙様式2 (高)

	プログラムのアルゴリズムやソフトウェアの知識と技術の定着に努める。	プログラムやソフトウェアの基礎的・基本的な情報活用能力を身に付けさせる。	B		
家庭科	基本的知識・技術の定着を図る。	ICTを効果的に活用し、技術の定着と向上を図る。	B	C	ICT活用の授業実践に科内で取り組み、生徒の基礎・基本の知識・技術の定着に努めた。家クラブの活動を継続的に行い、活動を定着させるとともにクラブ員の交流を深めることができた。
		授業研究に取り組み、指導の工夫改善を図り、指導力を高める。	C		
	選択コースの授業充実と資格取得に努める。	少人数指導によるきめ細かな指導を行い、各種検定の合格率100%を目指す。	D		
		意欲的に課題研究に取り組み、成果をまとめ、発表する。	C		
家庭クラブの活性化に努める。	調理講習会や花いっぱい運動などを行いクラブ員の意識を高める。	B			
	ホームプロジェクトを実施し、生徒自ら課題を発見・設定し、解決する経験を積む。	B			
教務部	生徒の学習意欲及び基礎学力向上を図る。	年2回(6月と11月)の校内での授業公開を積極的に推進するとともに、研修会を実施し教員の指導力向上に努める。	B	C	主体的・対話的で深い学びにつなげる授業実践が課題。ICT環境が整い、より効果的な活用を模索している。学力向上のためには、進路などと絡めながら学習に対する意識を高める必要がある。蔵書の整理を行いながら、生徒の利用しやすい図書館の環境は整ってきた。ホームページ更新、学校新聞発行などの広報活動は適切に行いたい。
		ICT機器を有効に活用し、生徒の主体的・対話的で深い学びの実践に努める。	C		
		基礎学力を向上させ進路実現を果すために、適切に課題等を与え家庭学習を勧める。	C		
	学習指導体制の確立を図る。	成績不振者に対しては、学年・教科と連携しながら、長期休業中や考査前に補習を行う。	B		
		授業を大切にす意識を高める。学年と連携し、欠課時数で指導を受ける生徒を少なくする。	C		
	図書館利用者数の増加を図り、活性化に努める。	新入生への図書オリエンテーションを実施し、授業での図書館利用の支援を行う。	B		
		静かで明るい読書環境を整備したり、生徒の興味関心をひくテーマによる展示を行ったりすることで、利用者の増加をはかる。	B		
		購入図書希望アンケートを実施し、図書館の充実を図る。	C		
	広報活動を充実させ、本校への志願者数を増やす。	学校説明会や学校公開を充実させ、中学生や保護者、中学校の先生方に本校の魅力を伝える。	B		
		学校新聞を年間8回以上発行、地域や関係中学校に配布し、学校の魅力を伝える。	C		
ホームページを効果的に活用、積極的な情報発信を行う。		C			
進路指導部	進路意識・職業観・勤労観の向上を図る。	適時に適切な進路行事を実施し、職業観・勤労観を向上させる(進路講話、進路ガイダンス、進路別バス見学会、職業人講話、進路希望調査、進路セミナー)。	A	B	・より生徒の進路意識の向上の図れる進路行事、内容の検討など指導の工夫が課題である。 ・ICTを利用した進路指導の環境・設定を整備していくことが課題である。
		キャリア教育を実践し職業観・勤労観を向上させ地域の人材を育成する。	A		
	基礎学力の向上と自己理解をめざす。	課外授業、公開模擬試験、適性検査、一般常識テスト、秘書検定を実施し、進路実現能力の向上を図る。	B		
		個に応じた面接指導、進路相談を実施し、進路目標を明確にする。	A		
	学年・保護者との連携を図る。	就職進学説明会、各学年進路指導部員間の連携、保護者面談時の進路相談を実施する。	B		
進路行事をHPへ掲載する。PTA会報へ進路状況を掲載する。		B			
生徒指導部	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	「朝のあいさつ運動」を通して、あいさつの励行や身だしなみの指導を行う。	B	C	・朝のあいさつ運動を継続して、挨拶の励行や基本的生活習慣の確立を図る・ ・いじめ未然防止のため日常の生徒観察を十分に行い、生徒の変化に早期に対応する。 ・交通安全に対する意識を高めさせ、事故防止を図る。
		生徒指導集会を実施し、頭髪や服装の正常化等規範意識の向上を図る。	C		
		全教員が普段からの「声かけ」を行い、生徒との信頼関係を築く。	C		
	生命・身体の安全確保を基本とした生活指導を実践する。	登下校時の交通指導を実施し、交通事故防止を図る。	C		
		携帯・スマホ利用のルールとマナー遵守を促し、トラブルの未然防止に努める。	C		
	外部機関との連携を強化する。	月毎に被害調査を実施し、生徒間トラブルの早期発見、対応を図る。	B		
関係機関と協力し、地域の祭礼等の巡視を行い問題行動の未然防止に努める。		C			
		地域からの苦情や連絡に真摯に対応し、速やかに行動する。	C		

別紙様式 2 (高)

特別活動部		学警連や県東地区の生徒指導部と情報を共有して、生徒指導を実践する。	B	C	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で、校内外の多くの活動が中止や制限のある中で実施できた行事もあったが、体育祭が開催できず残念であった。 ・生徒会を中心に生徒自身が自ら考え、行動する力をさらに発揮する機会を増やしていきたい。
	部活動の活性化を図る。	定期的な顧問会議の開催と各部顧問間での情報共有・共通理解を図る。	C		
		生徒会活動との連携を図り、部活動を活性化させるための活動を促進する。	B		
	ボランティア活動を奨励する。	多くの生徒がボランティア活動に参加できるように、各種ボランティアの案内・掲示と呼びかけを実施する。	C		
	生徒会役員の自発的活動を促進する。	生徒会による校外・校内での積極的な活動を促す。また各種委員会もできる限り活動をしてもらえるように環境を整備する。	A		
	キャリア・パスポートを活用する。	生徒が各々、特別活動の履歴を整理し、自己を省みることで人間関係形成・社会形成能力等を育成し、自己実現につなげる。	B		
渉外部	保護者と教職員が連携し、信頼される学校づくりに努める。	PTA 役員会等を通して連携を密にし、教育活動への理解と協力を得る。	B	C	<ul style="list-style-type: none"> ・本校 P T A の事業については、コロナ禍以前に近いかたちで、活動を進めることができた。また、多数の役員の方に参加いただいた。 ・高 P 連関係事業や地元地域の行事なども徐々にコロナ禍前のように実施されるようになってきたが、今年度も中止となったものもあった。 ・次年度も状況に応じて、活動を進めていきたい。
		保護者面談以外にも、学校公開や P T A 総会など、保護者がより参加しやすい計画を立てる。	C		
	地域や関係機関との連携を図る。	PTA 広報誌や HP を活用して、学校の教育活動の様子を地域に積極的に公開する。	C		
		地域の関係機関と連携してマナーアップキャンペーンを実施する。	E		
保健安全部	生徒の健康管理や感染予防の意識を高める。	「保健だより」を毎月発行する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスの感染予防に努めることができた。 ・教職員対象の救急救命講習や消防署と連携した避難を実施することができた。 ・生徒の情報の共有や行事等の確認を図ることができた。 ・今後も、不測の事態を見据えながら対策できるようにする。
		ポスターを掲示したり資料を配付したりすることで、思春期特有の疾病や季節毎の感染症について理解させ、自身の健康について考える機会を増やす。	B		
		健康診断の受診率 100%を目指す。	B		
	防災・安全教育の徹底を図る。	関係機関と連携した防災訓練を計画する。	A		
		救急救命講習を計画し、緊急時に対応できる体制を整える。	A		
	環境美化の意識高揚に努める。	HR をとおしてゴミの削減と分別の徹底を呼びかけるとともに、清掃用具の定期的な交換を実施する。	A		
	問題生徒の早期発見と支援に努める。	問題を抱える生徒と面談し、問題解決の支援をする。	B		
		保健安全部会を定期的実施し、問題生徒の面談計画と支援策を協議する。	B		
		校内の支援体制を整備し、保護者・中学校・外部関係機関との連携を図る。	C		
		心理テストを実施し、支援に活用する。	A		
教育相談研修の実施と教師の資質向上を図る。	「相談室だより」を定期的に発行し、掲示や配付をし、相談室の活動を周知徹底する。	A			
スクールカウンセラーの有効な活用をする。	スクールカウンセラーの専門性を活かした生徒支援と職員への生徒支援方策の助言を活かす。	A			
第一学年	基本的生活習慣の確立と保護者との信頼関係の構築を目指す。	「あいさつ運動」を通じ、積極的にあいさつをする習慣を身に付けさせる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活や授業に落ち着いて臨んでいる生徒が多いものの、不十分な生徒も多数おり、継続的指導を目指したい。また、社会意識や進路意識も含め、自主性を養う関わり方も課題である。支援が必要な生徒も含めて生徒の個性を大切にし、能力を伸ばさせたい。
		基本的生活習慣の確立、時間厳守を柱に、堅実に社会生活を送る力の育成を図る。	B		
		保護者への迅速かつ正確な連絡を心がけることで、連携を強化し、諸問題の早期対応・解決に努める。	B		
	授業に取り組む姿勢や、進路意識の醸成を通じ、基礎学力の定着を図る。	授業に熱心に取り組み、計画的に課題に取り組む態度を養う。	B		
		課外授業や各種模擬試験を計画・実施・奨励し、計画的に人生を構築しようとする姿勢を養う。	B		
		進路行事を充実させ、また、一人一人の特性を考慮した進路指導を心がける。	A		
協調性・社会性の伸長を	多様な他者を寛容し、助け合い、共生する姿勢を養う。	B			

別紙様式2 (高)

	目指す	特別活動部や各部顧問とも協力し、部活動への積極的加入を推進する。	B		
		集団生活において果たすべき責任について考え、行動する態度を育成する。	B		
第二学年	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	頭髮・服装の指導や遅刻防止の指導を継続的に行い規範意識の向上を図る。	B	B	頭髮・服装・遅刻指導等は組織的・継続的に行っているが、2学期後半から遅刻者が増えつつある。今後も時間を守る・大切にする意識を持たせるとともに、高校生らしい生活リズム・習慣を身につけさせたい。最終学年に向けて、課外や模試、資格や検定を計画・募集し、進路実現に向けた取り組みの強化を図っていききたい。担任の先生方のご尽力で、保護者との連絡・連携は、ほぼ問題なく行っている。特に来年度の進路実現には保護者の理解なしにはうまくいかない部分なので、さらに連携を密にしたい。
		遅刻・欠席を減らし、高校生らしい生活リズム・生活習慣を確立する。	B		
		時間を守る・大切にする姿勢を強化し、有意義な時間の使い方を身に付ける。	B		
	基礎学力の定着と進路意識の向上を図る。	授業に主体的に取り組む姿勢を養い、授業理解に必要な予習・復習の習慣を身に付ける。	B		
		自分で考え、考えを共有し合う姿勢やプレゼンテーションの力を強化する。	A		
		課外授業や実力テストを実施して基礎・基本学力のさらなる定着を図る。	B		
	豊かな人間性と社会性を身に付けさせる。	キャリア・パスポート・進路行事を活用し、自分の将来を考える機会を設ける。	B		
		ホームルーム活動に積極的に参加させ、コミュニケーション能力の向上を図る。	B		
		修学旅行や体育祭・球技大会などの集団活動を通して、他者を認め、互いを尊重する態度を育てる。	A		
	保護者との連携を密にし、信頼関係を構築する。	『道徳プラス』や『総合的な探究の時間』を通して、道徳的判断力や実践意欲を養う。	B		
保護者との連絡・連携を密にし、諸問題に対して早期かつ迅速に学年全体で対応する。		A			
		確実な情報を保護者・地域に発信するとともに、保護者の意見等に対しては真摯に対応し、本校の教育への協力・理解を求める。	B		
第三学年	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	頭髮・服装の指導を継続的に行い、規範意識の向上と社会人としてのマナーを身につけさせる。	B	B	基本的な生活習慣や規範意識、基礎学力の向上などはおおむね良好であったが、中でも遅刻指導については頭を悩ませられた。保護者・家庭の協力が必要だと痛感した。 進路関係の指導については、ICTを用いるなど工夫しながら実施し、コロナ禍ではあったが業者を呼んでのガイダンス等も予定通り行え、担任の先生方を中心に学年団で細やかな指導を行った。 保護者との連携・対応も丁寧に行い、信頼関係を構築し、協力を得られた。
		あいさつなどコミュニケーションを活性化し、互いを認め合い、協力しあえる関係作りを促す。	A		
		登校時間・授業時間を厳守させるとともに、時間を大切にする・うまく使うことの大切さを伝え、遅刻指導を強化する。	C		
	基礎学力の定着と進路意識の向上を図る。	授業を大切にし、教えあい活動や発表の場を準備し、生徒が主体的に取り組む姿勢を養う。	B		
		自分で考え、その考えを共有しあう姿勢やプレゼンテーション力のさらなる強化に努める。	B		
		各種資格・検定の案内を随時行い、積極的に取得させる。	B		
	進路指導の充実、全生徒の進路希望を実現させる。	課外授業や常識一般テストを実施して、基礎学力のさらなる定着を図る。	B		
		進路指導部と連携し、進路説明会、模擬面接、志望理由書や履歴書指導等を数多く実施する。	A		
		オープンキャンパス、体験学習、会社見学に積極的に参加させる。	A		
	保護者との連携を図り信頼関係を構築する。	進路相談の個別指導を適宜実施し、各生徒の進路実現を促す。必要に応じて保護者を交えて行う。	A		
保護者との連絡・連携を密にし、問題に対しては早期に学年でチームとして対応する。		B			
		確実な情報伝達のための工夫をするとともに、保護者の要望や意見に対しては丁寧に対応し、学校教育への協力を求める。また、必要に応じて家庭訪問を行う。	B		

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できてない